

京都市環境審議会
第 2 回 環境基本計画改定検討部会

日 時 平成 27 年 8 月 5 日（水） 午後 3 時 10 分～4 時 30 分

場 所 京都ガーデンパレス「桜」の間

出席者 小幡部会長，池垣委員，板倉委員，才寺委員，深尾委員，村瀬委員

欠席者 大久保委員，小山委員

1 開会

- ・環境政策局環境企画部長 挨拶

2 議題

(1) 改定計画の全体構成について

- ・事務局から，改定計画の全体構成について，資料 1 に基づき説明

(才寺委員) 第 1 章の「社会情勢・環境の変化」のところに「東日本大震災に伴うエネルギー政策の見直し」についての記載がある。京都市は市会で脱原発依存の議決をされたと思うが，国では原発をベースロード電源として使うという方向性を示している。そこで，この計画では，脱原発依存を前面に出していくのか，お伺いしたい。

(三宅環境企画部長) 京都市の基本的な考え方としては，市会の決議と同様であり，できるだけ速やかに脱原発依存を可能な限り進めていく。経済・市民生活の支障も踏まえつつ，温暖化対策と関連が大きい問題なので，再生可能エネルギー等の利用のさらなる進捗を進めるということと，可能な限り早い段階で原発に頼らなくても維持できるようにしたいというのが基本的な姿勢である。

明確に脱原発依存を前面に出すかどうかという点については，現段階ではそこまでの検討はしていない。計画の構成上どのように記載するのか，間接的に再生可能エネルギーと関連付けて記載するのか，そういったことなどについても検討を要すると考えている。

(才寺委員) 今後 10 年間の計画なので，その間に技術的にも大きく変わるかもしれないが，経済界としては，原発が停止し電気代が上がっていて，企業はこれ以上努力ができないという状況の中で，経済の好循環を作りながら事業を行わなければならない。そういったところも配慮していただきながら，計画を進めていただきたいと思っている。

(三宅部長) ここで記述しておきたいと思ったのは，従前型のエネルギー供給と使用はできなくなってきている，といった状況の変化についてである。京都市の立場と

して、具体的には再生可能エネルギーの普及拡大といったところで施策展開をしていくというのが重要になってくるかと思う。具体的な表現については、委員の皆様と相談させていただきたい。

(小幡部会長) 極めて表現が難しい。再稼働が良いのか悪いのか、といった問題を環境審議会で議論する必要があるのか、といった点についても整理が必要である。

(三宅部長) エネルギー政策の議論としては、温暖化対策と結びついてくるものだが、電力だけの問題でもなく、他にも色々な要素がある。エネルギー政策全体として議論する場が京都市にはない。

(小幡部会長) 温暖化対策としては、地球温暖化対策推進委員会での議論ということになるか。

(三宅部長) 脱原発か原発依存かという議論ではなく、エネルギー政策として京都市が掲げているのは、再生可能エネルギーを利用していくという方向性についてである。その方向性については誰も異論がない。地球温暖化対策推進委員会では再生可能エネルギーの普及拡大について議論していただいている。

(村瀬委員) これだけ暑いと、電力が足りているのかどうか不安になる。節電しようにもこの暑さでは熱中症になっても困るし、難しい問題である。

原子力が良くないとなったら火力発電を使用する。そうすると二酸化炭素が発生して、温暖化対策と逆の流れになる。原子力は怖いけれども、電力は欲しい。

市民協働発電はどうなのだろうかとも思いながら、エアコンを使うのが申し訳ないような気はしつつも、我慢できないので使っているという感じである。

(三宅部長) あくまで計画策定の背景に関連する社会状況の変化を説明する意図で、東日本大震災に伴うエネルギー政策の見直しに触れるという想定をしている。

ただし、これは案であり、仮にこれを計画に書き込んだ場合には、エネルギー施策の見直しに対するアウトプットを環境基本計画の中で示していく必要がある。そうなった場合、果たしてそのようなものまで必要なのかという議論になると思う。

(小幡部会長) 近年の社会動向を踏まえるということになれば、上位計画である京都市基本計画との関係からも、その分野別計画である環境基本計画に独自の目標が出てくるということになり、そのことから判断が難しい。

(三宅部長) 問題提起をすれば、それに対する方向性と施策を各章の中で提示していくべきものだとは認識している。その部分で、本当に環境基本計画の枠内でエネルギー政策のすべてを施策として出せるのかという難しさがある。

エネルギー政策については国も含めて色んな議論があると思うので、載せるか載せないかを含めて検討したい。

(小幡部会長) ただ、この計画自体は、12月には中身を固めなければならない。

再生可能エネルギーを使っていくという方向は確認できているので、そのことについては書くということによいのではないか。

原子力についてどう判断するかは庁内で検討いただき、ここでまた議論することになると思うので、エネルギーについては今日のところはここまで留めておきたいと思う。

その他にエコロジカルフットプリントなどがあるが、分からないこともあると思う。資料1の3ページのところに説明がある。こういったものを入れていきたいという意見があるようである。これは、計画に入れるか入れないかを含めて検討中ということか。

(三宅部長) エコロジカルフットプリントについては、一つの評価の指標として取り入れられないだろうかと検討していたものである。京都市民の今のくらしや経済活動を持続可能なものにしようとする、京都市の面積がもう一つ分必要になる、などの表現ができる。

このことで全般的に省エネの行動が推進されることにつながるかもしれないが、その一方で、具体的にどう行動すればよいのかイメージできるようにはなっていない。

日本全国の自治体でエコロジカルフットプリントを算出したところはどこにもなく、環境省が日本全体で算定したことがあるくらいである。初めての試みとして、京都市のような大都市で算定すると、当然、人も集まっているし、産業も集まっているので、良い結果が出にくいのではないかと想像できる。

エコロジカルフットプリントについて、算出するからにはその結果を踏まえてどうするかということについて打ち出していく必要があるとも思っている。そういった点も踏まえて議論していただきたい。

(小幡部会長) もう一つの特徴はワークショップである。子どもたちに意見を聞いて入れていくというのが新しい環境基本計画の目玉になる。

エコロジカルフットプリントについて、大阪、京都、神戸といった都市間でも人がたくさん移動しているので、京都市だけで計算するというのも難しい気がするが、どうだろうか。他の方法も含めて御意見をいただきたい。

(板倉委員) フードマイレージみたいなことならできると思うのだが、エコロジカルフットプリントは京都市だけで計算しようとするとうごく大変である。

(小幡部会長) フードマイレージについて、輸入物が少なく中央卸売市場を通じて、近郊の都市からの仕入れているとしても、計算が難しい気もする。

他にそういった指標があるか。また、そういった指標は必要なのかという点も含めて御意見いただきたい。

(深尾委員) エコロジカルフットプリントは、具体的にイメージが付きやすいという点が分かりやすくていいものだと思う。計算が難しいのかどうか、というのは判断ができない。

(才寺委員) 環境基本計画は、どうしても堅い印象があり、なかなか皆さんが手に取って見る機会がない中で、具体的にイメージできる指標があれば分かりやすい。しかも全国初の取組なら、マスコミの方にも取り上げてもらいやすい。

しかし、京都市は閉鎖された空間でもないし、観光客としても年間 5 千万人が出入りする都市なので、それをどのように指標として扱うのかという点では難しい部分もあるのではないかと思う。

(小幡部会長) 例えば、他に何か京都市全体を一つで表すことができる指標はないだろうか。京都の一人当たりのエネルギー消費量というのであれば、すぐに分かると思う。全国との比較もできるだろう。そこに食料や住まいというものを絡めて設定することはできないだろうか。

計画全体の目標として、3 つぐらいの要素で表すというのも手かもしれない。その場合、京都で 3 つぐらいの指標で表すとすれば、どのようなものが考えられるか。例えば、もったいないとか、そういったものはどうやって測るか。

(村瀬委員) 今の私たちの生活を見直すとすれば、冷蔵庫については中身を整理することが大事である。あとはごみを減らすことも大事である。飢餓のある国のことを考えたら、もう少し私たちも生活を見直さなければならないのではと思う。市民が取り組みやすいことから始めなければ、どれだけ良い目標を作っても実行できない。

(小幡部会長) 京都市の一人当たりのエネルギー消費量は、他都市に比べて多いのか少ないのか、それは調べられるか。

(三宅部長) それは調べられると思う。エコロジカルフットプリントについては、一つの見せ方として考えられるが、計算して総合的な数値として表すところに難しさがあると考えている。現時点での京都市のエコロジカルフットプリントはどういった評価であり、どう使えるのかということについて研究しなければならない。

代案として、色々な角度からの指標について、それぞれ全国で京都市の順位はどのくらいであるのか、という見せ方もできると考えられる。エコロジカルフットプリントについては、事務局でもう少し検討させていただきたい。

(小幡部会長) 分かりやすい指標については、次回また案を出していただき、議論していきたい。

(2) 改定計画の長期的目標及び基本施策について

- ・事務局から、長期的目標及び基本施策の考え方について、資料 2 に基づき説明

(小幡部会長) 別紙 2 の右の部分に長期的目標が 4 つある。この体系でいいかどうか、項目を減らした方がいいなどの意見があるか。

(才寺委員) 長期的目標の 2 番目に「公害のない」とあるが、そろそろ公害という言葉は使わないのではないかなと思う。工場や事業者もそういった対策は進んでいるので、「環境に配慮した」などという言葉にしたらどうか。

(三宅部長) 用語としては、行政用語で「公害苦情」のようなものがあるが、こうした計画の中に「公害」という名称を使うかという御指摘だと思う。「環境に配慮した」という表現は前向きな印象である。

(板倉委員) 私は「公害」という表現を残した方がいいと思う。公害という言葉が悪いように思われているが、公害は世界的にも辞書にも載っている言葉である。

公害とは、不特定多数の人が不特定多数の人に対して意図せず与えてしまった害、と定義されている。公害というのは一番適切な用語である思っている。

現に、工場からの騒音や振動の苦情、車の排気ガス、鉄道の騒音苦情などが今でもあり、なくなっているわけではない。引き続き発生しているものとして、入れておかないといけないと思う。

(小幡部会長) 長期的目標で「公害」という表現を除いたとしても、基本施策として「公害」の内容が入っている。

(才寺委員) 個人としての意見ではあるが、言葉としての負のイメージが強いので、基本計画に載せるのは他の言葉がよいのではないかと考える。

(深尾委員) 難しいところである。昔の公害となると、負のイメージを思い出す。

今でも騒音や大気汚染などの公害がなくなったわけではないが、企業も配慮するようになっていくし、「環境にやさしい」などの方がイメージは良い気がする。

(村瀬委員) 公害がなくなったわけではない。

(三宅部長) 京都市では年間で 600 件くらいの公害に関する苦情が寄せられる。騒音がトップで、振動、大気汚染も多い。

(小幡部会長) 「自然環境と調和した快適で安全・安心なまち」の中に「公害」と「生物多様性」と「文化」とあるので、私は残しておいてもいいかと思う。

(才寺委員) もっといい言葉があれば御検討いただきたい。

(板倉委員) アメリカでも「コウガイ」という単語が使われている。窒素であれ、最初から意図したわけではないけれども、結果的に被害が出たわけである。言葉としては正しい。

(小幡部会長) 公害がなくなったというと嘘である。私はそのまま残してもいいと思う。

(三宅部長) 「公害」を別の言い回しとした場合には、伝わらない気がする。

(小幡部会長) やはり公害はあるものだし、残すということにしたいと思う。いかがだろうか。

(三宅部長) 迷うところだが、京都市でも公害の防止に取り組んでいるので、基本的には残させていただくということで進めたい。

(小幡部会長) それでは、この原案で行きたいと思う。

続いては、参考資料 3 について、お気づきの点などがあれば御意見をいただきたい。

主観的な指標と、客観的な指標を設定したうえで、指標数を少なくしたいということであった。すぐに御意見いただくのは難しいだろうか。

(三宅部長) 資料でこういった指標があるということで御覧いただいて、御意見あれば次回の検討部会でも、メール等でも御意見いただきたい。

(3) 市民意見の聴取について

- ・事務局から、環境基本計画改定に係る市民意見の聴取について資料 3 に基づき説明

(小幡部会長) これは先ほどの審議会でも色々と意見があった。エコロジーセンターに協力を得て開催していくということである。何か意見があれば御発言いただきたい。

(板倉委員) 今日の時点での申込み状況はいかがか。

(三宅部長) 苦戦している。

(板倉委員) ファシリテーターの質はかなりレベルが高く、問題ないと思うので、人が集まれば大丈夫だと思う。学校や教育委員会などに夏休み前に宣伝したのか。

(室野担当係長) 夏休み前に教育委員会に相談したうえで、電子掲示板に掲示し、そこから各学校の児童に配布してもらうようにお願いした。

(才寺委員) 小中学生向けと一般向けが同じビラでの告知になっており、小中学生にマスタープランなど書いても、子どもたちが理解できるかどうか。日程的にも夏休みも後半で、子どもは忙しいと思う。

(深尾委員) この日は地藏盆があるところも多い。

(池垣委員) 休みが少なくなっているので、子どもを集めるイベントは難しくなっている。

それから、このワークショップのまとめの発表について、子どもがすることであれば、負担が大きいと思う。自由に意見を言えば良いというのなら、意見を出してくれるかもしれない。

(室野係長) 子ども達で発表するよう自主性を促すこともできるが、基本的には各班の発表については、ファシリテーターがまとめながら行う予定である。

(板倉委員) 生物多様性の観察会のときも、1 回目は集めるのが大変だったが、2 回目は教育委員会をメンバーに入れることでうまくいった。また、自由研究になると言えば、人の集まりもだいぶ違う。

(深尾委員) 京都市の教育委員会の後援となれば学校も配るが、ビラが多いので取捨選択しているところも多い。

(室野係長) 夏休み期間でもあるので、環境関係の催しなどを中心に参加を呼び掛けていきたい。

(小幡部会長) 声のネットワークで広めてもらうなど、たくさんの参加者を募り、議論をしていただいて、バックキャストिंगの材料になるようなものが出ることを期待したい。

3 閉会